

答え合わせ・解説

問1	答え 2 ネズミ返し	高床倉庫は、湿気やネズミの被害を防ぐために床を高くした建築物です。柱の途中に板状の出っ張り（ネズミ返し）を取り付けることで、地面から登ってくるネズミがそれ以上進めないように工夫されていました。
問2	答え 1 後漢書	『後漢書』は、後漢時代の出来事をまとめた中国の歴史書です。この中にある「東夷伝」という章には、当時の日本（倭）の様子が記されており、57年に奴国の王の使いが後漢へ向かい、光武帝から金印を授けられたという記述が含まれています。
問3	答え 4 志賀島	福岡県の志賀島で、農作業の最中に石の間から金印が発見されたと伝えられています。金印には「漢委奴国王」という文字が刻まれており、これがかつて中国の皇帝から授けられたものと結びつけられました。
問4	答え 3 銅鐸	銅鐸は、主に近畿地方を中心に分布しており、弥生時代の村の共同体で行われる祭りや儀式に使われたと考えられています。初めは小型で実際に鳴らしていましたが、時代が進むにつれて大型化し、文様が描かれるようになり、神聖な祭器として祭りの場に立てられたり、埋められたりしました。
問5	答え 2 祭祀	青銅器である銅剣や銅矛は、鋭い刃を持ちながらも実用には適さない繊細なものも多く、主に祭祀の場で神聖な道具として使われました。これらを所有したり儀式を主導したりすることが、指導者の権威を高めることにつながりました。
問6	答え 1 高温	縄文土器と異なり、弥生土器は密閉された窯などを用いて高温で焼く技術によって製造されました。高温で焼くことで強度が上がり、煮炊きに適した薄い土器を大量に作ることができました。これにより食生活や保存方法が大きく向上しました。
問7	答え 3 クニ	この争いに勝った有力者が周辺の集落を統合し、「クニ」と呼ばれる政治的なまとまりを作りました。クニには王が現れ、指導者として集落を管理しました。中国の歴史書『漢書』や『後漢書』には、日本に多くのクニが存在していたことが記されています。
問8	答え 4 銅鐸	銅鐸は青銅製の釣鐘状の道具で、当初は小型でしたが、次第に大型化しました。表面には稲作の様子や動物、自然などの絵が描かれることもあり、当時の人々の信仰心や芸術性を伝えています。
問9	答え 1 鉄器	鉄は青銅よりも硬く丈夫であるため、刃先として農具（鋤・鍬）や武器（剣・矛・鏃）などに加工されました。鉄製農具の普及により、土地の開墾や灌漑施設の整備が効率的に行われるようになり、収穫量が大幅に増大しました。
問10	答え 2 金属器	金属器には主に銅製品（青銅器）と鉄製品がありました。青銅器は、銅剣や銅矛、銅鐸のように主に祭りや儀式のための道具として用いられ、集団の結束を高める役割を果たしました。一方で鉄製品は、農具や武器として実用的な側面が強く、当時の生産性向上や戦いの激化に寄与しました。
問11	答え 3 吉野ヶ里遺跡	吉野ヶ里遺跡は、周囲に二重の環濠と柵をめぐらせた巨大な集落跡です。内部には多数の高床倉庫や竪穴住居、祭祀場などが復元されており、弥生時代の社会構造や生活の様子を知る上で非常に重要な遺跡です。
問12	答え 4 稲作	稲作が定着したことで、人々は安定した食料を得られるようになり、収穫の時期に合わせて同じ場所に住み続ける定住生活が始まりました。木製の農具や鉄製の道具が使われるようになり、生産効率が飛躍的に高まりました。
問13	答え 2 鉄器	鉄器は主に農具の刃先や、武器としての剣や矛などに加工されました。特に鍬や鋤などの農具が鉄製になったことで、森林の開墾や水田の整備が非常に効率化され、米の収穫量が飛躍的に増加しました。
問14	答え 1 小国	当時の日本は「百余りの小国」に分かれていたと『後漢書』などに記されています。これらの小国は、豊かな水田地帯を支配する有力者（首長）を中心に組織され、ときには他の集落や小国と水や土地をめぐる激しく争いました。
問15	答え 4 金印	1784年、福岡県の志賀島で農夫によって発見されました。印面には「漢委奴国王（かんのわのなのこくおう）」と刻まれており、中国の後漢書にある記述と一致します。これは、当時の日本が既に中国の皇帝から「王」として認められる外交交渉を行っていたことを裏付けています。